

## 第1回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

日時 平成29年12月25日(月) 14:30～15:30  
場所 応接室(本庁舎2階)  
出席者 委員長：知事  
委員：菊池克彦、菊池信太郎、鞍田炎、佐々木孝司、横田純子(50音順)  
事務局 企画調整部 櫻井部長  
企画調整課 増田課長、佐藤主幹、中村主任、佐久間副主査、富田主事

### 1 全体的な趣旨等について

- ・ 震災、原発事故にあった福島が、中長期的に目指していく姿などを念頭に置き、国内外に向けてこういう地域を作っていくという強いメッセージを発出すべき。
- ・ 平成の終わりが見える年に、次の時代に希望を持たせないといけない年。復興の先を見据えた新しい福島県を発信するのがポイント。
- ・ つらいことや嫌なことがあったけど、7年を1つの区切りに、次のステップに進まなければいけない。

### 2 構成について

- ・ 毎回と同様の流れで良いのではないか。

### 3 これまでの振り返り等について

- ・ 震災当時を振り返り、3.11の大切さを伝えることが重要。
- ・ 震災当時の体験・経験というものに触れたい。
- ・ 震災当時の新聞等から、その当時こんなことを話していた、という生きた言葉を入れてはどうか。
- ・ 被災地の人たちの頑張りを認めてもらいたい。トップリーダーから「頑張っているね」という声をいただきたい。
- ・ 苦しい中頑張っている子どもたちに、ちゃんと見ていますよというメッセージを入れたい。

### 4 復興の現状等について

- ・ 現状は、光と影が入り交じっている状況。
- ・ 明るい話題を入れたい。
- ・ 復興の先頭に立ってやっているものを、ぜひ入れてほしい。
- ・ 風評被害などとも関連するので、食の部分を入れたい。
- ・ 風評被害はあるが、「農産物をこれだけ食べていますよ」とか、「どんどん売れていますよ」という表現の方がいい。
- ・ 避難者の置かれた状況が多様化していて、複雑になっているということをうまく盛り込みたい。

## 5 今後の方向性等について

- ・ 全国的に注目される行事を入れたい。
- ・ 福島に来た人たちにもメッセージを届け、これから来ようとしている人たちにも福島の今の姿を伝えていきたい。
- ・ 福島の子どもたちにもどういう福島を委ねていくのかという、子どもにフォーカスした内容を盛り込みたい。
- ・ 双葉地域に新たにできた学校から羽ばたく子どもたちというのも、本県にとっての誇りであり、希望の象徴。
- ・ 福島に住めば一番健康になる、健康な生活ができるということをアピールしたい。
- ・ 健康も、まず、大人も子どもも危機意識を持つ必要がある。体に良いことをやることは楽しくポジティブなことと気付いてほしい。

## 6 呼びかけ等について

- ・ 子どもたちが挑戦しているのを見て、大人もやはり頑張らないといけない。
- ・ 被災地では皆さん一生懸命やっているので、励ましていただきたい。
- ・ 願いとか、希望などを盛り込みたい。
- ・ キーワードは「自立」「自分らしく」「自分の足で進む」。大変ではあっても、前向きに進んでいかなければ道は開けない。「みんなで応援するから、みんなで頑張ろう」というメッセージにしたい。
- ・ 大事なのは、「危機意識」の「き」と「希望」の「き」。危機意識のない希望では楽観的過ぎるし、希望のない危機意識は悲観的過ぎる。
- ・ 危機意識を持ちながらも、明るい未来や希望を持った、外国人にとってもクールなメッセージとしたい。

## 7 発信方法等について

- ・ 世の中のことをあまり気にしない、危機意識がない人にも、届ける工夫をしたい。
- ・ 3月11日の発出以降も、目にするチャンスをうまく作ってほしい。
- ・ 世界中の方々の心に響くメッセージとしたい。